

続日南町史が 発刊されました

昭和59年に発刊された『日南町史』に続き、令和2年9月『続日南町史』を発刊しました。



続日南町史とは

昭和34年の日南町誕生以降、60年間にわたる町の歴史を綴りました。様々な分野で行われてきた町の事業をとりあげた「行政編」と、自治会（地区）単位で地域の特色などを紹介した「地域編」に分かれています。

発刊までの道のり

平成26年度に最初の審議会が開催され、故増原町長が審議会に諮問されました。平成27年度には、専任職員を配置し、具体的な方向性の検討がはじまり、主な章立て・構成や取り上げ範囲などについて町長に答申されました。



平成28年、編集委員会を設置し、具体的な内容について協議されました。行政編では主に役場OBに、地域編では各自治会単位から選出された方々に助言や意見等をいただきました。

平成29年から本格的な執筆を開始し、令和元年度中頃に戸時代までの歴史の編さんが望まれます。

その他

「地域編」の巻末に日南町内の民話を掲載しています。たくさんある民話の中から11話を厳選しました。町内の場所が舞台になっていて、同じ場所に行ってみて思いをはせてみてはいかがでしょうか。

書ききれなかった

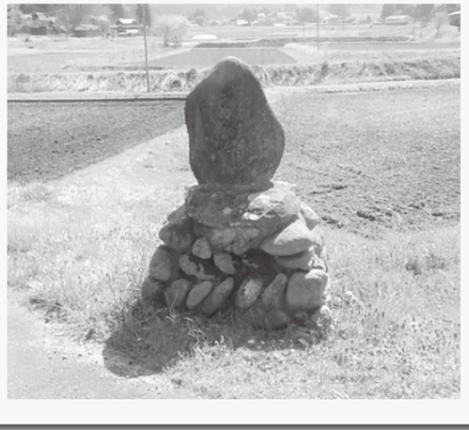
エピソード

今回の町史は昭和34年から現代までの出来事を綴っています。前回の『日南町史』では明治時代から昭和時代までを取り上げているので、今後、古代から江

タマネギ栽培の 石碑!?



日南町茶屋の大仙谷集落には、この地域でタマネギの栽培が始まったことを記念する石碑が残っています。当時、タマネギはまだ珍しい野菜だったようです。今は当たり前にお店で販売されている野菜ですが、明治時代の人たちの心の中で、印象深かったのではないのでしょうか。



校了、令和2年9月に完成しました。

「行政編」 について

「行政編」は、9編約1200ページで構成し昭和34年以降に役場が行ってきた主な事業を取り上げています。役場の各課が行ってきた目玉事業を紹介し、日南町が歩んできた60年の歴史を振り返ることができ、貴重な写真も数多く掲載しています。

「地域編」について

町内7つの地域の特色について紹介したものが「地域編」です。約800ページで構成し、地域において60年の間にどのような変化があったのかを紹介するとともに、その地域の成り立ちや地名の由来、地区の特色など様々な事項を紹介しています。

注目ポイント（読みどころ）

「地域編」の町内各地域の自慢です。町に住んでいても、自分の居住地域以外については知らないことが多いのではないのでしょうか。米山は地域の歴史や文化を後世に残すことに非常に強い意志を持っていました。そんな米山が『日南町野史』が完成した際に読んだ歌の中に次のような歌があります。

あらうれし 苔の下にて
われきかむ
この野史よみて 笑う人声

自分が作った『日南町野史』を後世の人たちが興味深く読んでくれることを期待し歌ったものです。

この『続日南町史』も長く後世まで町民に親しまれるものになることを期待します。



※雅号：文筆家などが本名その他につける別名

※PDF版もついているので是非ご覧ください。

お問い合わせ

町史編さん事務局（教育委員会）

TEL 82-11118

日南町史 豆知識クイズ

Q1 背表紙の「続日南町史」という文字は誰が書いたもの？
A 中村町長です。

Q2 日南町で一番標高の高い「場所」はどこ？
A 一番標高の高い場所は2カ所あり、岩樋山山頂と岩樋山と道後山の中間にある無名の盛り上がり部分で標高は1271mです。

Q3 日南町になる前にはどんな村があったの？
A 5つの町村がありました。伯南町、高宮村、多里村、石見村、福栄村です。昭和の大合併以前も何度か合併がありました。明治10年に地方自治制度が始まるまでは江戸時代から続いていた村が日南町だけで100村近く存在していました。

Q4 有名な人のお墓はあるの？
A 戦国時代から江戸時代にかけて、尼子氏の家臣で「森脇市正」という戦国武将がいました。出雲国（島根県東部）で活躍した人ですが、どういいうわけか墓は日南町福万来の長楽寺にあります。